

令和2年度第1回さいたま市公共事業評価審議会 摘録

- 1 開催日時 令和2年11月24日(火) 15時00分～17時20分
- 2 開催場所 浦和コミュニティセンター 第10・11集会室
- 3 出席者 委員 久保田会長 伊藤(史)委員 小池委員 持田委員 八木澤委員
さいたま市 建設局 村上理事
都市局まちづくり推進部市街地整備課 飯野課長 外3名
建設局土木部道路計画課 関根課長補佐 外2名
事務局(建設局技術管理課) 高橋参事兼課長 外4名
- 4 議 事 (1) 第1回審議会における審議内容について
(2) 審議
〔事前評価〕さいたま市無電柱化推進計画
((都)産業道路(原山2工区)、(都)本町通り線(鈴谷2工区))
〔事後評価〕主要渋滞箇所対策におけるICアクセス道路等の整備(第1期)
〔事後評価〕地域に密接した緊急病院のアクセス向上及び安全な道路空間の確保を図る道路整備
〔事後評価〕住宅開発に係る基盤整備(第2期)
〔事後評価〕地域特性に合わせて市街地機能を高める、安全で快適なまちづくり(第2期)
(3) その他
- 5 傍聴者 なし
- 6 議事内容

(1) 第1回審議会における審議内容について

事務局	[事務局より説明 資料1]
-----	---------------

(2) 審議

- 〔事前評価〕さいたま市無電柱化推進計画
((都)産業道路(原山2工区)、(都)本町通り線(鈴谷2工区))

道路計画課	[道路計画課より説明 資料2]
伊藤(史)委員	<p>《質疑応答》</p> <p>・2つの路線について、産業道路はB/Cを算出し、本町通り線は行っていない理由は。</p>

道路計画課	<ul style="list-style-type: none"> ・また、用地買収について、産業道路で約半分、本町通り線は数%進捗しているが、今後の取得目途や費用の考え方について伺う。
小池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、産業道路の原山2工区においてB/Cを求めているが、現在の2車線の道路から4車線とする計画を進めており、交通量の増加に伴いB/Cを算出した。 ・本町通り線の鈴谷2工区については、2車線の道路のままのため、歩道整備による安全性の確保等を図る計画であることから、産業道路のみB/Cを算出している。 ・また、用地買収について、当初は交付金事業として事業を進めており、今回の個別補助の制度へと移行したため、交付金事業における残事業として用地買収が進んでいるような形になっている。 ・産業道路については、平成27年度から令和4年度までに工事が終わる計画となっているが、残りの年数で用地買収の完了は困難な状況となっており、令和4年度までの用地買収の取得状況等を踏まえ、期間の延伸について検討したいと考えている。
道路計画課	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ（説明資料P.17）について、産業道路のその他の欄にはCO2排出量やNO2、SPM排出量の削減に期待できるとあるが、本町通り線にその記載がない。また、本町通り線では、バリアフリーの視点で評価されているが、この区域が保健所等に近いという趣旨なのか確認したい。
八木澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出量やNO2、SPM排出量の削減について、渋滞の主要な原因は、右折車線がなく、そこに留まっている車を先頭に渋滞が発生し、車の旅行速度が遅くなっていることである。 ・産業道路のB/Cを算出するなかで、渋滞による損失削減によりCO2等の削減に関する評価を記載したが、本町通り線について根拠となる数値を算出していないことから、記載していない。 ・本町通り線について、南与野駅から近い場所に保健所があり、本区間を含めたルートがバリアフリー化経路に位置づけられていることから、バリアフリーに特化した記載とした。
道路計画課	<ul style="list-style-type: none"> ・B/C算出の費用に関して維持管理費が5,000万円となっているが、供用後50年間でこの金額でいいのか、年間100万円しかコストがかからないことになる。
久保田会長 道路計画課 久保田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・1年毎に維持管理するというよりも数年に1度補修することを想定しており、補修の周期をならすと維持管理費はこれくらいで済むという考え方である。 ・将来についての費用は、現在価値に換算している影響もあるか。 ・そのとおりである。
道路計画課 伊藤(史)委員	<ul style="list-style-type: none"> ・無電柱化推進計画の評価について、B/Cをその他の欄に記載している理由について、道路事業の評価によるもので、重要なのは防災と安全・快適の視点で定性的に評価するためということでしょうか。 ・そのとおりである。 ・防災に関して、無電柱化する場合、地下に埋設するか、他の道路に電線

道路計画課	を回すことになるが、この辺りの水害の可能性と対策について伺う。 ・計画幅員 18m以上ある道路については、雨水流出抑制対策として、地下に貯留施設を設けるため、今回の産業道路については、雨水を溜める施設を合わせて設置する予定である。 (意見等以上)
久保田会長	・この事業について特段の意見がないということで審議結果とするがよいか。
委員	(意見なし)
久保田会長	・本件の審議は以上。

〔事後評価〕 主要渋滞箇所対策における IC アクセス道路等の整備(第 1 期)

〔事後評価〕 地域に密接した緊急病院のアクセス向上及び安全な道路空間の確保を図る道路整備

道路計画課	[道路計画課より説明 資料 3]
伊藤(史)委員	《質疑応答／主要渋滞箇所対策における IC アクセス道路等の整備(第 1 期)》 ・個別の要素事業が達成できていない状況のなかでは、厳しい評価結果となるのではないかと。
道路計画課	・本事業については、5 年間の整備計画を定めており、当初の想定ではいくつかの要素事業が完成することを見込み、評価することとした。 ・また、用地買収については、この 5 年間で多くの路線が完了し、次の計画で渋滞の緩和が見えてくるのではないかと考えており、今後、ご指摘の点について、定量的指標を立てる際に研究していく。
小池委員	・5 年での目標が達成できなかった理由と、今後どれくらいの期間があれば完成できるのか伺う。
道路計画課	・国道 4 6 3 号越谷～浦和バイパスを例にすると、ランプ工事の進捗状況から令和 5 年度末には完成する見込みとなり、次の整備計画である令和元年度から令和 5 年度の間には完成するように進めている状況である。
持田委員	・関連する意見として、今回の事後評価は、民間の事業評価では C 評価になってしまうと思う。 ・それは、事業の進捗に対するコメントがあまりないこと、完成した要素事業が 3 箇所とのことだが、全部完成するのは現実的ではなく、ここまでの進捗は様々な努力の結果であるとか、用地買収が完了したことを踏まえ、この先は加速していくなどの弁明がない。
道路計画課	・また、渋滞長の悪化について、1 日の結果のみで判断していいのかという懸念があり、例えば、天候に左右されることもあることから、別日との平均値で評価しても良かったのではないかと思います。 ・ただいまのご意見について、今後評価していくにあたり、しっかり取り入れて進めていきたいと考える。

久保田会長	・渋滞長に関して、今回評価した9箇所すべてが悪化している状況か。また、市内の他の状況は。
道路計画課	・さいたま鴻巣線桜区道場1丁目交差点については、南側の道路が開通したことで最大渋滞長に大幅な改善がみられているものの、残りの8箇所については悪化している。
久保田会長	・また、今回は市内の他の主要渋滞箇所の状況については調査しておらず、確認できていない。
久保田会長	・コロナ禍の状況で、この結果は疑問であり、大宮国道の移動性向上の委員会のなかで示された県内全体の渋滞状況の結果では、基本的に渋滞長が減少傾向で、場所によって悪化している箇所もあった。さいたま市も悪化箇所に含まれていると考えられるが、理由はわかっていない。
久保田会長	・そのため、コロナの影響による特殊な状況が出ている可能性もあり、数値については、特殊な状況であることを資料に明示し、正確な評価は今後のコロナの終息をもって確認するなど、追記が必要である。先ほどの1日だけの結果だけで評価している意見も含め、今後に活かしてほしい。
八木澤委員	《質疑応答／地域に密接した緊急病院のアクセス向上及び安全な道路空間の確保を図る道路整備》
八木澤委員	・道路冠水箇所数のデータについて、3箇所しか終わっていないということで、冠水箇所数は事後において2%増加した結果となったが、箇所数で評価すると事前・事後で雨の外力が異なり、事後の時点のほうが、降雨が多い印象があり、その影響を受けていると思う。
八木澤委員	・開通済みの冠水箇所数については20%低減し、良い結果と思うが、洪水時に痕跡調査を行うなど、冠水の体積で検証するともっと高い評価になると思う。 (意見等以上)
久保田会長	・この事業について特段の意見がないということで審議結果とするがよいか。
委員	(意見なし)
久保田会長	・本件の審議は以上。

〔事後評価〕住宅開発に係る基盤整備（第2期）

市街地整備課	[市街地整備課より説明 資料4]
伊藤(史)委員	《質疑応答》
伊藤(史)委員	・定量的指標の妥当性について、住宅の促進を図るための利便性を高めることを目標にしているのであれば、例えば、対象とする団地から主要な生活施設へのアクセス性の向上を指標としたほうがよかったと思う。
伊藤(史)委員	・また、人口の目標値に関して人口推移による近似式を直線的に設定して

市街地整備課 久保田会長	<p>いるが、それぞれの団地での計画人口の達成率により評価してもよかったと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の計画において反映していきたいと考える。 ・要素事業における全体事業費、実施事業費、事業進捗率の関係がわかりにくい点があり、それらの関係性をうまく表現できるよう資料に工夫を要するので、今後の検討課題としてほしい。 <p>(意見等以上)</p>
久保田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・この事業について特段の意見がないということで審議結果とするがよいか。 <p>(意見なし)</p>
委員 久保田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・本件の審議は以上。

〔事後評価〕 地域特性に合わせて市街地機能を高める、安全で快適なまちづくり(第2期)

市街地整備課	[市街地整備課より説明 資料5]
小池委員	<p>《質疑応答》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定量的指標に関するアンケート調査について、対象者、人数、回答率、関係者の属性、指標にある質問のみをしたのか、他の質問のなかに指標の質問を入れたのか、確認したい。
市街地整備課	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートについては、さいたま市総合振興計画で実施した際に質問した項目のなかから活用したもので、昨年度、市内在住の方を対象に行った。
小池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・このアンケートの信憑性がわからない状況での意見だが、指標について、「まちなかに緑や開放的な空間が感じられ、快適な生活ができていると感じる」質問に関して、まちなかに緑や開放的な空間を感じられることを、快適と評価することが前提となっている。 ・快適な生活というのは、自分がさいたま市に住んでいて、自分の生活環境が快適と感じる場合や出かけた先に緑や開放的な空間があって快適と感じる場合もあり、回答者の立場になるとわからない設問であり、質問の仕方に工夫が必要と考える。 ・また、「地域の特性を生かしたまちづくりがされていると感じる」質問についても、市全体のことを聞いているのか、自分の住んでいる地域を指しているのかがあいまいで、今回は、市街地再開発事業の指標としているため、開発された地域がよくなったのかを質問するなど、アンケートの活用にも工夫を要すると思う。 <p>※事務局より補足説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの調査対象は、さいたま市にお住まいの満18歳以上の方から、無作為に10,000名を抽出し、アンケート調査票の配布・回収ともに郵送。約4割の方から回答をいただいている。

伊藤(史)委員	・ 今回の定量的指標の設定についてはわかりやすく、アンケートにより市民の気持ちを把握することはいいことであると思う。また、今回の指標を確認するためだけにアンケートを実施するよりも、コストの関係で既存の調査を活用することもいいと思うが、市全体ではなく、この事業に関わる区だけを抽出して値を出す等、工夫したほうがよかった。
久保田会長	・ 狭あい道路の解消率について、今回の事業は、市の根幹となる重要なものばかりであることから、その評価になじむものなのか違和感があり、土地区画整理事業や市街地再開発事業が完了すれば、狭あい道路はゼロになることは事前にわかるもので、事業の進捗率を評価している。 ・ 今回の定量的指標①、③、④に関する意見については、今後の検討課題としてほしい。 (意見等以上)
久保田会長	・ この事業について特段の意見がないということで審議結果とするがよいか。
委員	(意見なし)
久保田会長	・ 本件の審議は以上。

(3) その他（議事録の確認について）

	今回の審議会の議事録は、久保田会長より指名した、持田委員及び八木澤委員が事務局で作成する議事録を確認することで了承。
--	--